



# 浦口こうてんの 県政報告

発行：浦口こうてん事務所  
〒641-0045 和歌山市堀止西1-10-14  
TEL.073-424-4860 FAX.073-424-3733  
E-mail uraguchi@nnc.or.jp  
http://www.nnc.or.jp/uraguchi  
平成15(2003)年11月 Vol.1

「ごあいさつ」

## この郷土(和歌山)を元気に!!

### おかげ様で頑張ってます。

#### 和歌山県議会議員 浦口高典

平成十五年四月十三日  
感激・感動・感涙の  
県議会議員初当選  
九千二百二十一一人  
もの方に、ご支援を頂け  
たことは、今も感謝の気  
持ちでいっぱいです。本  
当にありがとうございます  
ました。

おかげ様で、県議会議  
員として、ご支援頂いた  
皆様のため、また地元和  
歌山のために、休むこと  
なく一生懸命働かせて頂  
いております。

選挙後も、時間があれ  
ばご支援頂いた皆様のお  
宅に御礼と現況報告にお  
伺いしておりますが、な  
かなか全てのお宅という  
わけにいかず、この度こ  
の六ヶ月の私自身の活動  
について「浦口こうてん

## この半年を ふり返りますと...

### 県議会初登庁・「新生 わかやま」県議団結成!

4/30(水)

初登庁。県議会入口にて、  
多くの議会事務局の皆さん  
に迎えられ、議員バッチを  
付けて頂く。4/13の当選  
後、政党関係者の方から勧  
誘を頂きましたが、「無所属  
」として選挙を戦い、こ



涙いっばいの妻・孝子と後援会の方から頂いた花束を胸に「和歌山を元気に!!」の決意を新たにしました

の県政報告」という形で  
まとめました。今後定期  
的にご案内させて頂くつ  
もりですが、ご意見やお  
気付きの点等ございまし  
たら、遠慮なくご連絡く  
ださい。よろしくお願  
い申し上げます。

## 2 目標

議員提案条例の促進  
議会の情報公開と活性化  
NPO・ボランティア  
等、市民活動との連携と  
支援

近隣の府県議会議会派並び  
に、県内首長・市町村議  
員との連携

時代の潮流に応じた委員  
会、議連などの見直しと  
新設

## 3 意志決定

会派での議論は十分行っ  
たが、一人一人の議員の考  
えを尊重し、意見書や採決に  
ついては決定をもって議員  
の拘束はしない

## 4 役員体制

顧問 阪部菊雄(伊都郡)  
代表 玉置公良(西牟婁郡)  
副代表 野見山海(田辺市)  
副代表 原日出夫(田辺市)  
幹事長 山下直也(和歌山市)  
幹事長代行 浦口高典(和歌山市)

## 五月臨時議会

5/15(木)5/20(火)

五月臨時議会が開会さ  
れ、議長・副議長を選出、  
各所属委員会が決定しまし  
た。私の所属は、

●総務常任委員会

●議会運営委員会

●予算委員会

●コスモパーク加太対策検  
討委員会

●関西新国際空港対策特別  
委員会(副委員長)

等です。

## 六月定例議会

6/13(金)7/1(火)

六月定例議会、一般質  
問が始まりました。わが  
「新生わかやま」県議団から

は、論客で知られる玉置代  
表と副代表が質問に立ち  
環境や農業問題について鋭  
く知事や当局の姿勢を問  
質しました。初めての本会  
議でもあり、今回はじつと  
りと聞かせて頂きました。

## 正副議長と 「一五会」で

7/7(火)  
今年四月の県議選では、  
全四十六名の県議会議員定  
数のうち約三分の一にあ

る十五名の新人が当選しま  
した。そのうち共産党三名  
をのぞく十二名の新人で  
「一五会」(平成十五年初当  
選という意味)という親睦  
会を結成し、私も幹事のひ  
とりに選ばれました。この  
日は、新しく選出された尾  
崎要二議長(海草郡)、吉  
井和視副議長(有田郡)を  
招いて、懇親会を開催し、  
先輩議員としてのお二人の  
苦労話やアドバイスを伺い  
しました。



「新生わかやま」県議団のメンバー  
左より浦口、阪部、玉置、山下、原、野見山議員  
(三重県議会議場にて)

## 三重県議と交流

7/8(火)7/9(水)  
三重県にて「新生わかや  
ま」県議団六名で初めての  
会派研修を行いました。  
テーマは、NPO、世界遺  
産、議員提案条例等につ  
いてじっくり勉強しました。  
三重県からは担当職員だ  
けでなく、県議会「新政み  
え」の三名の議員も説明に  
来てくれ、議員同士の活発  
な意見交換が行なわれまし  
た。7/9朝には、以前か  
ら懇意にしている三重市民  
活動センターの出丸マナー  
ジャーに会うことができ、  
「NPO先進県」三重の現  
状と課題点をくわしくお聞  
きました。

## 和歌山大学で講演

7/15(火)  
「市民活動支援条例(仮  
称)」づくりにむけ、県の  
担当者と、わかやまNPO  
センター、事務局らと初  
会合し、お互いの思いを語  
り合いました。その後、玉  
置代表と和歌山大学経済学  
部の岩田誠教授のクラス  
(学生約四百名)にて講演  
し、続いて岩田ゼミの学生  
約十名と懇談をしました。

## 京都市のNPO事情

7/27(日)  
新しくできた京都市民活  
動ボランティアセンターを  
視察し、深尾同事務所長と  
懇談した後、山岡法政大学  
教授(日本NPOセンター  
常務理事)の講演会に参加  
しました。

## 北川前三重県知事と

8/1(金)  
東京・新橋にて北川正恭  
前三重県知事と二人で昼食  
をとりながら懇談しまし  
た。早大法学部の先輩、後  
輩であるだけに半分は気楽  
な会話でしたが、これから  
の政治については、同氏は  
盛んに「マニフェスト」の  
大切さを強調されています  
た。その後、日本NPOセ  
ンター(丸の内)とNPO  
推進ネット(六本木)を訪  
問して、九月議会にむけて  
の資料収集と意見交換をし  
ました。

## NPO政策フォーラム

8/3(日)  
NPO・行政・議員のコ  
ア(核)メンバーによる  
「NPO政策フォーラム」  
がスタートしました。この  
日は、NPO政策研究所の  
直田春夫氏を講師に招き、  
「NPO支援条例」を中心  
に話を聞き、その後、お互  
いの立場からの意見交換を  
行ないました。今後、この  
会は、定期的に開催し、途  
中よりオープンにして県民  
のためのNPOのあり方  
について議論して意見をま  
めていく予定です。

## 予算委員会の茨城 県・東京都視察

8/4(月)8/5(火)  
私の所属する予算委員会  
で初めて茨城県議会と東京  
都議会の予算委員会の内容  
を研修に行きました。国と  
違い、地方議会では、予算  
委員会は統一した形がな  
く、各議会によって位置づ  
けが違うことです。これ  
から和歌山県議会でも他  
の例を学びながら、より議  
(4面につづく)

## 「金融機関の招致を」 時期など今後協議

H15.5.26毎日  
県議会総務部は26日開  
き、コスモパーク加太の  
施設整備問題について、  
委員から「金融機関の  
招致を促す」などの意見  
を述べ、時期や方法を  
協議する。委員は、  
「金融機関の招致は、  
県民生活に大きく影響  
する。特に、加太地区  
は、金融機関の不足が  
顕著であり、時期や方  
法は、今後、委員を中  
心に協議する。」と  
強調した。





# 浦口こうつんの 予貸委員会 初質問

平成15年9月24日 全文掲載  
（太字は質問）

『改革派』木村知事へ  
のメール！

新生わかやま県議団の浦口こうつんでございます。本年四月の県議選において初当選以来、今回初めて質問に立たせて頂きますが、全国的に有名な『改革派』の木村知事はじめその『大なる改革』を支えられている県幹部の皆様の前に立てることは、私にとりまして大へんな光栄であり、身の引き締まる思いでございます。ところで、その『改革路線』に従って誠意あるご答弁をよろしくお願い申し上げます。

「人口並びに事業所激減時代」における県行政の方向は？

初めての質問ということでありますので、過去にご答弁されたことと重複するかもしれないことをお許し頂きたく存じますが、まず、今、私たちが暮らす和歌山県の現状と将来を見据えた上での県の行政の方向について伺い致します。

少子・高齢社会というのは、もう何年も前から言われ続けてきておりますが、ここで私は、まず「人口減少」ということに着目してみたいと思えます。全国的に見て平成十八年をピークに人口が減り始めると言われております。しかし和歌山県では、既に昭和六十年をピークに十八年も前から人口が減り続けております。さらに、高齢化率が、近畿圏の中では一番高く、また十八

歳以上の若者の県外流出が他府県に比べて非常に多いという現実をみますと、これから人口は、減少いや激減していくといっても過言ではありませぬ。ちなみに私の地元であるこの和歌山市では、昭和五十七年の四十二万二、九〇六人をピークに現在三十八万二、八六一人と既に約二万二千人が減少し、これから十数年後つまり平成三十年頃には、さらに六万人から七万人減少していくというデータもありません。これを「激減」といわずしてなんと表現できるでしょうか。さらにまた、事業所数という観点から和歌山県の経済を考えますと昭和六十一年の六万七、一五二事業所をピークに平成十三年では五万八、九一七事業所と十七年間で八、一五五の事業所がこの和歌山から消えており、この傾向には歯止めはかかりそうではありませぬ。

ほとんどの人が思っていないのではないのでしょうか。さて、そのような「人口並びに事業所激減時代」という背景の中で、知事はこれから県行政の何に重点をおき、どのような方向で県民のための行政を行おうとしているのか、お聞かせ頂きたいと存じます。

木村良樹知事  
公共事業依存型は難しい。NPOとの協働、非常に大事なことです。

ただいまの質問は本当に難しい質問だし、一番重要なところだと思えます。

もうこれからは、日本全国としても高齢化、そしてある程度デフレ傾向というふうなものが続いていくような中で、和歌山県は特に高齢化が著しいというふうなことがあるわけですから、やっぱり行政もそれに合わせたようなシステムをつくっていく、その中で県ができるだけ元気を出していけるような仕組みを新たに考え出さないといかんというふうな時代だろうと思っております。

公共事業もこれで、和歌山県の場合、非常に公共事業依存型だったわけだけども、これはもう日本全国的な傾向として難しくなってきたという中で何か勢いをつけていくということ、一つは、例えば、これはもう決定的なことじゃないんですけども、緑の雇用なども都市から新たに人を呼んでくる、そしてまたそれに国の方のお金が入ってくるような仕組みというふうなことで考えたもので、それから白浜・田辺地域のIT地域設定についても、これも都市の方ではかなりITな

んかでは相当専門的な技術を持っていて、しかも田舎で暮らしたいというふうな人がいるので、エターンとかUターンの受け皿になればまた一つの転機も出てくるんじゃないかというふうな考えているわけですし、それから、企業の新規立地なんかなかなか難しいんですけど、そういう中でもできるだけ、この間もコープセンターが来ましたが、もうそういうふうな新しい分野について働きかけたり、それからトマトの工場とか、今いろいろやってますけども、そういうふうな面もやっています。それから、地場産業の振興というふうなことが非常に大事です。デフレの時代には、やはりもうこれからはデフレ下の好況とかデフレ下の不況とかいうようなことになってきますので、やっぱりそれぞれの企業が本場に、例えば中国とかそういうふうな競争するところ、打ち勝てるような力を持つていけるところだけが伸びていく、そうでないところはだめになっていくというふうな、もうはっきりした強者生存というふうな形になってきますので、そういうものをできるだけ緩和しながら、また和歌山県に強者たり得るような企業ができてくるような形の努力、こういうふうなことをいろいろやっていく必要があると思えます。

を考えていかないといかんと思えますし、それから、後に出てきますけども、NPOとの協働、これも非常に大きなことだと思っております。

いずれにせよ、これからもちよつと議会ともいろいろ相談しながら、まあ抜本的な政策というのはないと思うんですけども、いろんなことの積み上げの中で和歌山県が比較優位というか、よそより少しでも元気になれるような方策を考えていきたいと、このように思っています。



真剣にひとつひとつ答弁する木村知事

NPO（市民活動）の必要性と育成について？

私は、「人口並びに事業所激減時代」の和歌山県において、政治も行政も今まではハッキリと違う方向を示し、既存の価値観を打ち砕きつつ、新しい価値観のもとで、新しい県創りをしていかなければいけません。和歌山県はますますシリ貧になり、県民にとっても不安や不満が募るばかりだと思えます。地方分権が本格的に進めば、いろいろな面で他府県と比べてさらに遅れをとり、和歌山県人であっても将来地元に住むことを諦め、他府県への移住してしまう可能性も大であると思えます。

そこで、新しい価値観で新しい和歌山県創りをするというひとつの方法として、NPO（市民活動）についての質問をさせて頂きます。NPOは、既にご存知の通り、平成十年十二月に特定非営利活動法（いわゆるNPO法）として法制化されてから、各都道府県において、その活用について活発に議論され、実践されてきました。本年八月現在で全国で約一万二〇〇〇団体、和歌山県においても七十五団体が法人認証を受け、日々活動しております。また、昨年七月にビッグ愛六階に「和歌山県NPOサポートセンター」を立ち上げるとともに、一昨年の「NPOボランティアアムニティ」や本年七月の「NPOによるふるさとづくり事業」等、県も積極的に取り組んでいることはよく存じております。しかし、NPOについての県民や行政にかかわる人々の意識はまだまだで、とても新しい時代を切り拓く方法にまで、育っていないと思えます。

必要があると考えております。現在、和歌山でも若者や中高年の人たちの失業が大きな問題になっております。今までも同じように企業誘致をして雇用を増やそうと努力しても大きな時代の流れ、つまり生産の拠点が中国や東南アジアに移っていることを考えると、なかなかうまくいかないのが現実です。そしてまた、自分で業を起こすといっても人口というパイがどんどん小さくなっていく現状を考えると、既成の事業ではなかなか続けていくことはできません。そのような中で、新たな社会的なサービスやこれまで国や地方公共団体が行ってきた公共サービスをNPOが行ない、雇用を生み出していく可能性があるとわかっております。また、NPOを活用して「コミュニティビジネス」というものを生む可能性もありません。こういったことを考えると、そのようなNPOを育成し、雇用の受け皿として創り上げていくことは、大事なことだと思えますが、商工労働部長のお考えはいかがですか？

宮地毅総務部長  
地方分権の目標は地方のことは自ら決めて自ら行うこと。

地方分権の目標は何かと考えますと、単に国と地方との権限や役割分担を明確にするということだけではございませぬで、それぞれの地方のことを自ら決めて自ら行うというところにありますので、そうしたことを進めるためには、行政の取り組みだけではなく住民が求めるサービスを住民自身が担っていかかわっていくということも含めまして、住民自治の取り組みが重要になってまいります。

また、県民のニーズが多様化、複雑化する中で、社会が成熟化する中で、これまでの画一的、均一的な行政サービスだけではなかなか県民の満足を得られにくいということもございします。こうしたことから、分権社会にありましては、行政によるサービスの提供とあわせて、NPOが大きな役割を担ってくるものと考えております。

ご指摘のように、今後地方分権が進展してまいりますと、行政の守備範囲が拡大してまいります。そのために、生活者である県民や地域の視点にも立脚して、県民と行政による協働を進めていくため、まさにNPOを初め多くの県民の皆さんと連携をしていく

NPOで雇用創出は？

現在、和歌山でも若者や中高年の人たちの失業が大きな問題になっております。今までも同じように企業誘致をして雇用を増やそうと努力しても大きな時代の流れ、つまり生産の拠点が中国や東南アジアに移っていることを考えると、なかなかうまくいかないのが現実です。そしてまた、自分で業を起こすといっても人口というパイがどんどん小さくなっていく現状を考えると、既成の事業ではなかなか続けていくことはできません。そのような中で、新たな社会的なサービスやこれまで国や地方公共団体が行ってきた公共サービスをNPOが行ない、雇用を生み出していく可能性があるとわかっております。また、NPOを活用して「コミュニティビジネス」というものを生む可能性もありません。こういったことを考えると、そのようなNPOを育成し、雇用の受け皿として創り上げていくことは、大事なことだと思えますが、商工労働部長のお考えはいかがですか？

石橋秀彦商工労働部長  
県下の雇用情勢は大変厳しい。総合的な経済対策を結果することが重要。

県下の雇用情勢は大変厳しいというところは認識してございます。このため、県といったにしても、景気・雇用対策について総合的な経済対策を結果することが重要である、このように考え、中小企業や地場産業対策を積極的に取り組んでいるところでございます。しかし、一方で今委員のお話のありました福祉、教育、



町づくり、それから環境保護等、さまざまな分野で多様な柔軟なサービスを提供する地域密着型の事業、いわゆるコミュニティ・ビジネスというものが最近注目をされており、認知をされつつあります。私も、私どもとしてもこれにつきまちは非常に注目をしているところでございます。

「コミュニティ・ビジネス」への取り組みは？

他府県において「コミュニティ・ビジネス」に取り組むNPOなどの団体が増えていきます。しかし、採算性などの面で苦慮しているところも多いのが現実のようですが、こうした「コミュニティ・ビジネス」が広がっている背景をどのように認識されますか？

また、県としてこのような動きがでれば、それに対する支援・取り組みについてどのように考えられていますか？この点もお聞かせ下さい。

石橋秀彦商工労働部長「地域社会の活性化と同時に新たな雇用の創出に「コミュニティ・ビジネス」に期待。

NPOなどの地域住民が中心になって展開するコミュニティ・ビジネスが拡大しているという理由、背景といったしましては、地域の問題解決のために主体的に行動しようという人がふえているということと、それから地域において必要とされる社会的なニーズが多様化している、こういったものが指摘をされているところでありまして、いずれにいたしまして、地域社会の活性化と同時に新たな雇用の創出ということから考えますと、大変私も期待をされているところでございます。

このため、NPOなどの地域住民によるコミュニティ・ビジネスの推進に当たっては、人材の確保、それから雇用管理などの解決すべき課題、それから県内での事業ニーズの把握なども必要があると思っておりますので、関係部局とも十分連携をとりながら新たな雇用の受け皿としての可能性を探ってまいりたいと考えてございます。

暮らしのセーフティネットづくりは？

地域社会における価値観が多様化している中でも、一人ひとりがその地域で安全で安心して暮らし、日々の暮らしの中で生きがいを感じ、満足感を得ることのできる施策、つまり暮らしのセーフティネットづくりは、基本的に必要です。

しかし、それをすべて行政が行なうことはとても無理であり、もし、それを行なおうとすると莫大な費用がかかります。

そういった中で、住民の多様なニーズに応えることができるNPOが地域にたくさんあれば、それは即ち、暮らしのセーフティネットになり、住民の福祉につながると思いますが、そのためのNPOの育成について、福祉保健部長はいかが考えられますか？



今までにない「切り口」で質問する浦口議員

白原勝文福祉健康部長「NPOやボランティアの役割は非常に大きくなる。」

現在、福祉、保健、医療等に関連するNPO法人、これが現在約四十二法人ございまして、これらの法人を初め多くのボランティアの皆さんには、既に高齢者や障害者、また難病患者の皆さんの在宅支援や地域生活・就労支援、いきがい支援を初め、地域における子育て支援など、幅広くご支援をいただいております。

しかし、少子高齢化時代において、多様化する地域の福祉ニーズに対応するとともに、暮らしのセーフティネットを構築するためには、NPOを初めボランティアの皆さんには今後ますますその役割は非常に大きくなるということを考えておるところでございます。

市民活動を拡大し、なお一層充実強化するためには、行政や社会福祉関係事業者等との連携強化やサポート体制の確立等が必要と考えております。

今後、関係者の皆さんの意見等をお聞きし、対応等検討するとともに、協働して支え合える社会づくりを推進してまいりたいと考えております。

地縁組織からNPOへ「市民力」アップをめざして！  
ここでひとつ議案第一三二号に関連しての質問をさせていただきます。  
それは、「公衆に著しく迷惑をかける暴力的不良行為等の防止に関する条例の一部を改正する条例」ですが、具体的には、JR和歌山駅東口側の深夜におけるハント族・ナンパ族と言われる若者たちの迷

惑行為に対して、深夜の0時から5時までの間の罰則を強化するという事です。もちろん、地元の方々の迷惑を考えると取り締まりを強化するという事は充分理解できます。

しかし、ここで少し考えて頂きたいのは、「モグラたたき」をするように、法的罰則によって締め出す前に、方法はな

かったのでしょうか？地元の自治会や防犯委員会等いわゆる地縁組織の動きは、いかがだったのでしょうか？

もし、それら地元の地縁組織で限界があったとすれば、和歌山市全域の既存の組織の対応はいかがだったのでしょうか。



県幹部を前に、堂々と「新しい県創り論」を展開

ちなみに、九月十八日の読売新聞朝刊の和歌山版にJR和歌山駅ではありませんが、JR海南駅周辺において、地元海南青年会議所の勇気あるメンバーが立ち上がり、海南署と一緒に防犯パトロールをするという記事を見ました。

そこで、県警本部長、地元地縁組織と共にこれらNPO活動に対するアプローチはいかがなされていきますか？お答えください。

宮内勝警察本部長「NPOを含め、県民の活動を積極的に支援し、連携していく。」

少年非行や犯罪の防止には、地域や民間の方々による自主的な活動が非常に有効であると考えております。最近では和歌山市内を中心として、県内各地でボランティアの

方々による自主的な活動が拡大、活性化しておりますところであり、今後とも議員ご指摘のNPOを含め、県民の方々の活動を積極的に支援し、また連携を密にしていきたいと思います。

新しい価値観で新しい地域社会づくりを目指し和歌山県を！  
実は、NPOにつきましては、木村知事の同志であり、また、私の学校の先輩で私自身政治的なアドバイスを頂いております北川正恭前三重県知事から、六年前に「浦口、NPOについて勉強してみろ！」といわれました。特定非営利活動法ができる一年以上前のごですから、NPOという言葉自体全くの初耳で、当時まだ、少なかつたNPOの関係書を本屋で捜し何度も読みましたが、「何だ、これは、ボランティアじゃないか。」という認識しか私にもてませんでした。しかし、ここで詳しくは述べませんが、NPOは決してボランティアや地縁組織とイコールではなく、あくまでも民間が行なう非営利体です。それに私は、四年前

の県議選に落選したあと、これからの時代において本当にNPOが必要であるのかどうか勉強してみようという決心を決めて、和歌山大学の教員の方と勉強会をつくり学習したり、全国的なNPOの団体を和歌山へ引っ張ってきて私自身活動を繰り返してきました。そういったNPOの活動の中から、この和歌山にも「市民」つまり、自分たちの地域のこととはまず自分たちで解決していこうという人たちが色々な分野にいらっしゃることを知りました。そして、その人たちと和歌山でのNPOの可能性を大きくするために、何度も議論を繰り返して、汗を流し、お金を出し合せて、事務所を構え、事務局員を雇いNPOの中間支援組織である「わかやまNPOセンター」を二年前に立ち上げました。木村知事には何度かセンターでまとめあげた政策提言を出しましたが、その度に真摯な態度で受け止めて頂き一杯の対応をしてくださいました。NPOの関係者は、高く評価し感謝しております。しかしそれは、決してNPO団体のためではありません。私は、はじめに述べた通り、「人口並びに事業所激減時代」の中で地方分権・雇用創出・暮らしのセーフティネットという観点からもNPOは新しい時代を切り拓く大きな方法(道具)になり、絶対に必要であると感じております。

木村良樹知事「来年は和歌山県のNPO元年とし、NPO先進県といわれるようにしたい。」

もうNPOに対する委員の気持ち、私の気持ちと全く一緒です。

実はきょうも朝刊を読んでおりましたら、NPOに対して全国の都道府県がいろんな仕事を委託しているのがもう九五%に上っているということとです。和歌山県もNPOに仕事を委託する事業をやっております。先日、その成果をその代表の方から聞きま

したけども、私は本当にうれしい気持ちになりました。みんな本当にいいことやってくれるなというふうな気持ちがありましたけども、残念ながらまだ和歌山県ではNPO、こういうふうな県も一生懸命旗を振り、浦口委員なんかも一生懸命頑張っておられるわけだけども、まだはつきり言って大きな力になるところまでは

いってません。それからまた和歌山市ではかなりいつてもかもしませんが、橋本市であるとか、御坊であるとか、新宮であるとか、田辺であるとか、まだ全県的にそういうふうな状況になることまではいっていません。

しかしながら、このNPOが本当にこれから、別に何も行政の一翼を担うということじゃなくて、社会全体において大きな役割、そして雇用の意味でも大きな役割を果たす、それから収益事業も行う、これといった構わないので、そういうふうなことで

非常に大きな存在になることは間違いないので、この間、私はその代表の方々が来られたときに、来年度からは和歌山県のNPO元年にするぐらいの気持ちでやっていこうというふうな思っています。これは委員の質問にお答えしているんですけども、多分隣の部屋とか後ろの方で私の言うことを皆、県の職員が聞いていまして、県の職員に対する気持ちで私は言っているんですけども、そういうふうな覚悟でやっていきたいし、よその県から見ると和歌山県はNPOで本当の先進県だと言われるようにしていきたいと、このように思っています。

NPOについては、私自身、県民の皆さんだけではなく行政の方とも、じっくり粘り強く議論しながら必要な制度づくりを含め、支援していく覚悟であることをこの場をお借りしてハッキリ申し上げ質問を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

「来年度を県のNPO元年に」  
知事表明  
県議会予備委員会が14日開かれた。浦口議員が「NPO(非営利活動)の必要とされている」と質問し、木村知事は「NPOで先進県と言われるよう取り組むたい。来年度をNPO元年とした」と答へた。

H 15・9・25 毎日



(1面からつづく) 会運営に適した予算委員会になるようメンバー全員で真剣に勉強しました。



予算委員会の東京都議会視察(左から2番目)

十四年の実績は、観客動員数二四万人、経済効果一〇八億円とのことでした。(ちなみに高知市は三十二万人、高知県は八十二万人と和歌山より小さい!)

そのあと、議員提案条例の「高知県放置自動車の発生の防止及び処理の推進に関する条例」について中心になった県議員に話を聞く予定でしたが、台風のため地元を離れることができず、かわりに議会事務局より説明を受けました。

8/9 オープニングのよさこいパレードを見学。一七〇以上の団体が、それぞれ趣向をこらした衣裳と音楽と踊りで観客を魅了していました。私自身、目の当たりにして胸に熱いものがこみ上げてくるほど感動しました。ちなみに県庁連の先頭には、あの橋本大二郎知事が奥様といっしょに踊られていました。その夕方、今回よさこい祭りに初参加する『和歌山MOVE』と

高知よさこい祭り 8/8(金)~8/9(土) 8/8 台風が接近している中、予約の飛行機が欠航になり、急遽、電車にて高知県庁へ。県と市の観光責任者から、よさこい祭りの歴史と内容についてくわしく説明を受けました。平成

合流。バス一台借り切つて約六十名の参加で、彼らの意欲は素晴らしいものがあります。(その中に私の妻・孝子も入っていました。)

“閑話休題” 全日本小・中・高校 拳法選手権 8/10(日)

政治の話ではありませんが、私の主宰する『ニッケンスクール高典塾』の少年部(小・中・高校生)が東京での全国大会に出場するため、応援に行きました。

成績は、別記(ニュース和歌山記事)の通りですが、五年前から「郷土づくりは人材づくりから」の理念のもとコツコツと取り組んできた成果です。どうですか、和歌山もまんざら捨てたものではないでしょう!

新しい日本をつくる 国民会議 8/21(木) 東京・平河町の都道府会

全日本拳法選手権大会 和歌山新聞 2003年(平成15年)9月3日 水曜日. Includes photos of participants and text about the event.

高典塾4選手が優勝 浦口佳菜選手は6連覇. Includes photos of the winners and text about their achievements.

館にて「新しい日本をつくる国民会議」(木村和歌山県知事、浅野宮城県知事、橋本高知県知事、北川前三重県知事等いわゆる「改革派」の知事の会合)が開催され、行政やマスコミ関係者の中に入って傍聴しました。三位一体の改革など国に対して地方の立場から、はっきりとものを言っていこうという意気込みを感じました。本県の木村知事も堂々と持論を述べられ、本当に頼もしい限りでした。

橋本・伊都 やつちよん祭り 9/7(日)

「和歌山を祭り(踊り)を通じて元気にしていこう」と頑張っている『和歌山MOVE』(ちなみに私は結成当時から、いっしょに参加して今は「勝手に応援団長」です。)が、参加する橋本・伊都の「やつちよん祭り」が開催され、和歌山でやるとするとどのような形がいいか考えながら最後まで見学しました。

NPO全国フォーラム 北海道会議 9/13(土)~9/14(日)

NPOについての見識を深めるために日本NPOセンターが主催する「NPO全国フォーラム二〇〇三北海道会議」(会場・札幌コンベンションセンター)に一人参加しました。全国各地から、NPO担当の行政マンや民間シンクタンク、それにNPO活動家等、約七〇〇名が一同に会するもので、二日間テーマごとに分かれた分科会で、NPOの可能性をじっくり勉強しました。

すずしい初秋の北海道... 各地の行政・民間シンクタンク・NPO関係者と「ワークショップ」

グループの皆さんの意見をまとめて発表

九月定例議会 9/11(木)~9/30(火) 9/11の召集あと、関西国際空港対策特別委員会を視察。また新しく社長になった村上氏ら関西国際空港(株)の幹部の方たちと懇談会がもたれました。それから今議会では予算委員会での初めての質問に立ち、「和

県の責任問う意見続出 工事契約案の採決延期 H15.9.17.毎日 ITセンター 地盤沈下問題

副知事が「遺憾の意」 H15.10.1朝日 議案に5人反対

紀州お祭り プロジェクト 9/22(日) ビッグ愛にて、以前から温めていた「和歌山を祭り」で元気に! という思いを

お願い 議会の申し合せにより、年賀状・暑中見舞は差し控えさせていただきますので、よろしくお願い致します。浦口こうてん事務所

決算特別委員会 10/20(火)~10/24(木) 議会運営委員会や予算委員会等常任委員会以外の重要な委員会は、だいたい各会派3名に1名の割合で委員を出すことになっており、この決算特別委員会にも、「新生わかやま」から、野見山副代表と私が出席しました。もちろん、予算、決算ともまだまだわからないことが多いのですが、一つ一つが勉強になり、議員としての実力養成といったところでいいか。しかし、これはおかしな点ばかりです。ちゃんと発言しております。

形にするために『和歌山MOVE』の内田代表が中心になり、紀州お祭りプロジェクト)が発足し、県・市の行政マンや若手経営者とともに参加しました。 総務委員会の 和医大・大分県視察 10/7(火)~10/9(木) 7日総務委員会と和歌山県立医科大学を視察した後、空路大分市へ。8日、大分県庁に行き防災センターを、その後佐伯市にて南海部郡の合併協議会と懇談しました。9日には、別府コンベンションセンターを視察しました。